

7～8月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

74,045円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(次月精算)	0円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	11,035円
通信費(折込、携帯電話代)	63,010円
支出計 22/7/11～22/8/31	74,045円
寄付 匿名さん	1,000円

第204号

49200部発行

発行日 22/9/1

市政を考える

月刊武松

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠 (小田原市議会議員)

小田原大海嘯から120年

当時のデータや写真から振り返る 高潮は予測可能 減災対策を

2022年は、1902年(明治35年)に小田原を襲った高潮災害である小田原大海嘯発生から120年を迎えます。当時の記録や災害写真から振り返ります。

※1 国会図書館デジタルアーカイブ

「明治三十五年九月二十八日神奈川県下暴風海嘯被害記事」

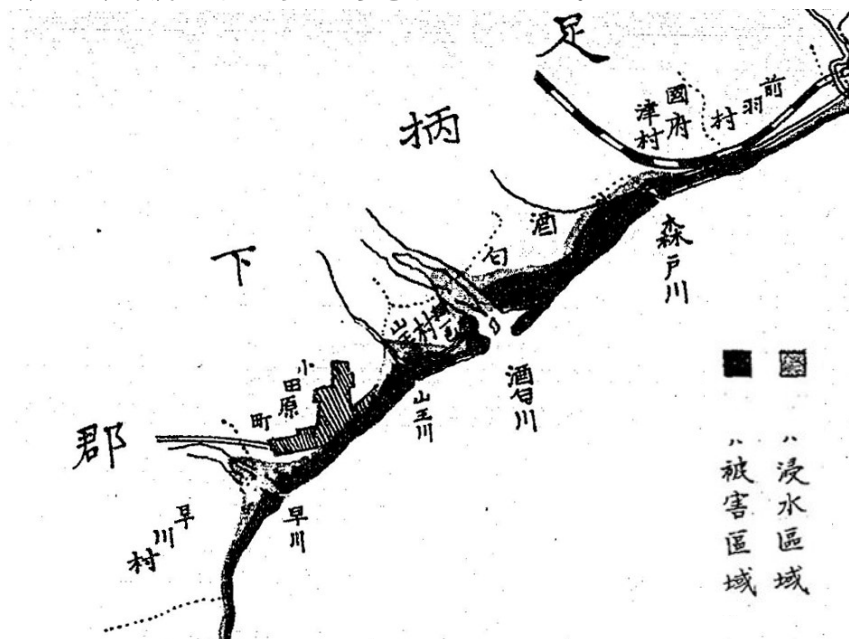
※2 土木学会附属土木図書館デジタルアーカイブ

■高潮被害状況(1902年9月28日午前11時頃発生)

大波が打ち寄せている時期に台風が通過し、満潮時に大波が堤防を越え、死者56名、行方不明者4名、負傷者343名、流失家屋552戸、全半壊家屋470戸の被害をもたらしました。当時、海岸には、波除土手があるにすぎませんでした。

図1に被害区域を黒色で、浸水区域を網かけで示します。線路は当時の東海道線で国府津駅からは現在の御殿場線です。被害区域は現在の小田原市沿岸全域で、網かけの浸水区域は、川を遡上した高潮が周辺に拡大した様子がわかります。

図2は当時の発生前後の天気図で、左が午前6時、右が午後2時のもの。高潮の発生は午前11時頃。当時の気圧の単位を換算し中心周辺の気圧730は、973hPa、中心気圧はこれ以下となります。2つの台風が同時に襲来し、小田原に高潮被害を及ぼした乙台風の進路は、南南東から三浦半島付近に上陸し、新潟から日本海に抜け、北海道に再上陸した経路をたどりしました。

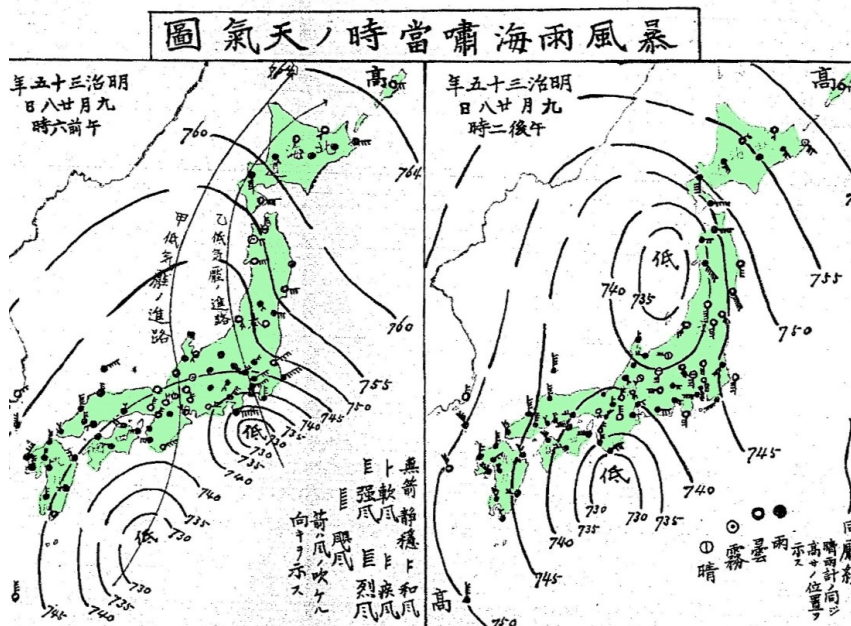


▲図1 海嘯被害図拡大図(神奈川測候所)※1



▲図3 国府津橋(森戸橋) ※2

橋は500m上流まで流された記録あり。右の線路は国府津から箱根湯本に至る箱根登山鉄道の前身の小田原電気鉄道。



▲図2 暴風雨海嘯当時の天気図(神奈川測候所)※1



▲図4 小八幡 ※2

倒壊した茅葺屋根の民家や、畳を乾燥させている様子がわかる。また右端の家屋には、「かどや」という屋号が見える。



▲図5 酒匂村（連歌橋付近） ※2



▲図6 山王原（山王橋付近） ※2



▲図7 小田原町 ※2

図5 酒匂村の道路は現在の国道1号で、右から来襲した高潮により、小田原電気鉄道の線路や電柱が、左に曲がっている。

図6 山王原の流された橋は山王橋で、川に沈む線路が見える。

図7 小田原町は、当時の旅館か、唐破風の玄関屋根が傾いており、壁が抜け柱だけで立っている様子がわかる。また右手前には屋根も流れ付いている。



▲図8 早川口 ※2

水車小屋が河口側へ倒壊している。



◀図9 石橋※2

線路は豆相人車鉄道。下が波で洗われ線路が宙に浮く。

当時小田原を襲った高潮は、浸水しただけでなく相当な勢いで、地震の津波のように押し寄せたことが分かります。

沿岸部には波除土手があるに過ぎなかったため、被災後小田原町は県に防波堤建造補助を求め、1503mに及ぶ防波堤を建設しました。

■高潮は予測可能 早めの減災対策と避難を

高潮は、台風の強さと位置（海岸に直角に吹き込む風向き）、満潮が重なると発生する可能性が高まります。防潮扉は事前に閉めることができます。高潮浸水想定区域図で浸水深3～5mの地域は、あらかじめ、家財、電気製品や畳等を上の階に運び、早めの避難を心掛けましょう。浸水が始まってからの自動車による避難は極めて危険です。垂直避難も考えましょう。

■お知らせ■

204号の配布は、新聞折込と駅頭配布のみ行います。
議会報告会は、当面の間、中止します。



公式HP
月刊武松バツナバー他



twitter
防災・感染症情報



facebook



高潮浸水想定区域図
神奈川県



土木貴重写真のつづ
土木学会附属土木図書館



▲北條五代祭りにて
来年は、議会参加なし